

税制改正要望大会

in 熊本

第27回 法人会全国大会 熊本大会のご報告

平成22年9月28日(火)、熊本のグランメッセ熊本にて法人会の全国大会が開催されました。荻窪法人会からは、小竹会長、加藤委員長、田中委員長、中原委員長、新井委員と私小林の計6名が参加しました。今回は、この大会の記念講演と式典の内容をご報告します。

小林 誉光 / 荻窪法人会 税制副委員長

第1部「戦国武将に学ぶリーダーの条件」 講師：加来耕三氏

〔1〕まずは疑問を抱くこと

「どつすれば歴史をビジネスに活用できるのか」という問いに対して、「立ち止まって(自らの常識を用いて)考える」ことが重要だということが出来る。歴史を活用することができない人は、歴史に疑問を抱かない人なのだ。

たとえば、「なぜ日本人はなぜ黒船を見て驚いたんだろうか?」「黒船を見たから?」「4艘だから?」「大さかったから?」だろうか。実は、

ペリーの艦隊が積んでいた兵器を日本人の上層部が理解できたからである。当時、陸戦でのみ使われていた最新鋭の大砲を黒船は積んでいたのである。これが、品川沖に入ってきたときにどんな被害がでるか予測できたのである。「なぜ…なのか?」「もし…なら?」というふうには、自らの常識をもって歴史を見ることが出来る人だけが、歴史を活用できるのである。

これには、「地面にしっかりと足のついた常識」が不可欠である。

〔2〕「日本人の英雄像」と「嘘ば

かりの大河ドラマ

日本人の英雄の条件として、人間が飛躍してしまったり、変身してしまうものばかりです。これは、歴史小説の影響やNHKの大河ドラマの影響が強い。

大河ドラマは、あくまでドラマである。大ヒットした「篤姫」も実は、主人公の二人が出会った記述はどこにもありません。「一度も出会ったこともない二人の恋愛ドラマ」を一年間かけて描いているのである。

〔1〕真実の織田信長

織田信長はどうだろうか。多くの人が抱く織田信長のイメージは、若いときは「貧乏で頭が悪くて不良」でも、年を重ねるにつれて急に頭角をあらわし、天下統一を果たす武将になったといったところではないだろうか。

でも、よく考えてほしい。年齢・性別・身分がある時代に、貧しい身分から教養を身につけて部下を束ねる名将になる。そんなに人は変わるものだろうか。また農民は、なぜ「桶狭間の戦い」で「頭が悪い」信長を支援したのか。なぜ農民は、

自らの命をかけて信長を支援しようとおもったのだろうか。時代が変わったとしても、「頭の悪いやつ」に命を任せるだろうか? 真実の信長は、16歳のときに、「税金の受け書」に判をつけている。この頃から信長は政治をおこなっていることがわかる。桶狭間の戦いは、信長27歳のとき。これらのことを常識から判断すると、信長は若い頃から頭もよいエリートで、政治に長けていてしっかりと仕事をしていた。だから、桶狭間の戦いでは、農民のみんなが支援したのだ。

〔2〕真実の坂本竜馬

大河ドラマの影響だろうか。最近、学生の好きな歴史上の人物を聞くと、「坂本竜馬」という人が多いい。このような学生の共通点として「頭が悪くておつちよこちよい」で常識が通用しない人が多い。「(先生)私は今勉強していかなくて、大したところありませんが、必ず将来大成しますから」と宣言したりします。

真実の竜馬は、21歳のとき、大砲の試し打ちで正確に的に当てたとあります。この記述から、当時では最先端の「弾道計算」ができたことになりました。理系の三角関数を用いた難しい計算を竜馬はできたのだと思います。これはまた、竜馬がオ

ランダ語の書物を理解していたことを意味します。

竜馬は、「海外貿易」にいち早く着目し、「亀山中社」(その後の「海援隊」を作った記述があります。日本語しか話せない人にそんなことができるでしょうか。常識で考えてください。竜馬自身が語学堪能な人物だったのではないのでしょうか。

その一方で、「竜馬が剣の達人だった」という記述はどこにも見当たりにません。みなさんが知っている竜馬のイメージは、歴史小説や大河ドラマによって作られたフィクションなのです。

〔3〕経営に役立つのは真の歴史学

大河ドラマや歴史小説をみて、「歴史は夢・ロマンだ」という人がいます。感動そのものは大切ですが、もっと大切なことは「本当はどうだったのか」を考えるとだと思います。「プロジェクトX」や「その時歴史は動いた」という教養番組を見るだけでは、雑学は増えますが、雑学はいくら積んでも雑学です。

経営を真剣に考えるなら、常識をもって歴史学を学ぶべきです。

歴史学に奇跡や偶然はありません。「数字重視のもの考え方」をするべきです。数字はその会社の歴史で



第1部講師の加来耕三氏。



第2部 式典の様子。



参加者で記念撮影。



会場外観。

あり、それを理解することはとても大切な歴史学といえます。

〔4〕他国の歴史から将来の日本を考える

過去を丹念に調べれば、今の日本と似ているものがたくさんあります。それらを理解することで、日本の将来を知ることになるのです。イギリスの反映と衰退は、今の日本に似ています。かつて大英帝国とよばれ、絶大な力を誇っていたイギリスは、そのプライドゆえに改革ができず行き詰る。国営の火葬場が財政難で機能せずに、積み上げられた棺の山。それを見て初めてイギリス人は自らの国の現状を知るのです。

かつて、世界第二位と呼ばれた先進国の日本の今は、大英帝国のそれと似ていると思いませんか。一人当たり700万円の借金のある国の信用は、遠くない将来失墜するのではないのでしょうか。

また、アメリカの現代史も7・8年後の日本を知る上で参考になるかもしれません。「教育制度の崩壊」「医療年金制度の崩壊」などは日本の未来を暗示しているようにも思えます。

〔5〕右手の法則と左手の原理

手品師が右手で演じる手品の種

は、ほとんどの場合左手にあるといえます。経営者には、見える右手でなく、左手にある真実を見極める力が必要だと思えます。私たちが見るニュース報道の欠点として、「決して立ち止まることのない」ことが

あります。私たちはニュースを見てその内容を理解した気になります。が、水面下の情報を知ることができません。同様に、私たちが知りえる情報のほとんどは、その一部であり水面下を知ることができません。それでも、経営者は一人で100%を判断しなくてはなりません。私たちが見えない左手を理解する手段として歴史学があるのです。

たとえば、ルーズベルト大統領のニューディール政策。大不況のアメリカが公共投資によって内需拡大を果たし景気が回復したことになっています（右手）。しかし、ニューディール政策と同じ時期、第二次世界大戦の参戦があります。アメリカの景気回復の真実は、戦争景気による利益が大きかったのです（左手）。似たようなことは、満州事変にもいえます。他人の土地の戦争は儲かるのです。昨今の中国問題、北朝鮮の情勢、普天間基地問題、そして世界の不景気。日本の政治家は過去を学ぶことで、慎重な判断を下すことが求められています。

〔6〕歴史学を学ぶ意味と創業理念

中小企業の経営者へ

今までみてきたように、「具体的な未来は、すべて過去にある」のです。しかし、ほとんどの人はそれに気づくことができません。その理由のひとつに、「人間はどんなに努力をしても（同じ時代を生きる）違う境遇の人は理解できない」からではないかと思えます。そこに「歴史学を学ぶ意味」があるのだと思います。

創業理念は、その会社の歴史の礎になるものです。

そこに立ち返ることで、会社の未来を考えることができるのではないのでしょうか。

第2部 式典（平成23年度 税制改正に関する提言）

第二部では、全国の法人会から寄せられた「税制改正の要望」をまとめた「税制改正に関する提言」が読み上げられました。

ここでは、それをまとめた「税制改正に関するスローガン」をご紹介します。

- ① 行財政改革を推進するため、議員・公務員定数の大胆な削減を！
- ② 税制の抜本的改革を行い、元氣な日本の復活を！
- ③ 法人実効税率は欧州・アジア主要国並みの30%以下に引き下げを！
- ④ 所得税は広く薄く負担を求め、基幹税としての役割強化を！
- ⑤ 適用要件を緩和・是正し、企業の継続に役立つ事業承継税制を！
- ⑥ 歳入・歳入の全体的な見直しの中で消費税率引き上げの議論を！
- ⑦ 地方分権の推進のため、三位一体改革の更なる徹底を！
- ⑧ 年金・医療・介護の制度改革を断行し、持続可能な社会保障制度の確立を！

税制改正の具体的な要望内容については、

（財）全国法人会総連合のHPをご覧ください。

（財）全国法人会総連合のHP

<http://www.zenkokuhojinkai.or.jp>